



# ADRC Highlights

Vol.17

Asian Disaster Reduction Center Biweekly News

February 2, 2001

## 阪神・淡路大震災から満6年

2001年1月17日で、6,400名もの死者を出した阪神・淡路大震災から6年が経過しました。被災地の兵庫県では、皇室をお招きした1.17ひょうごメモリアルウォークや、追悼の集い、復興記念事業など、様々なイベントが開催されました。

道路や鉄道、港湾などのハード面での社会基盤はいち早く回復、仮設住宅も解消し、震災前と変わらないほどに被災地の復興が進みました。しかし、経済不況とも相まって被災地の一部の産業などが厳しい状況にあるなど、これからの課題も多く残されており、きめ細かな施策が必要とされているのが実状です。

震災から6年たった昨今の被災地の復興状況を示す様々な指標を、兵庫県の資料を中心にまとめてみました。

### 1. 人口

被災地の人口は、2000年10月現在で震災前(95年1月)の99.5%とほぼ回復しています。しかし、被害の大きかった神戸市長田区は、96年10月に66.4%の水準まで落ち込んだ後、回復傾向に転じたものの、2000年10月現在81.1%の水準にとどまっています。

### 2. 県民所得

県民所得は、96年度に震災前の水準を回復、その後は国民所得と同様の傾向で推移しています。

### 3. 製造品出荷額等

製造業の製造品出荷額等(99年)は震災前の94年比で、全国が96.8%であるのに対し、被災地は85.2%と依然として震災前水準を下回っています。

### 4. 地場産業(ケミカルシューズ)生産額

被災地で大打撃を受けたケミカルシューズの生産額は震災後43%にまで落ち込んだ後、ようやく80%までに持ち直しています(99年)。

### 5. 商店数

被災地の卸売業、小売業別の動向をみると、99年の商店数は、震災前と比較して、卸売業が8.4%、小売業が12.0%減少しており、全国の0.8%減、6.2%減と比べても減少率が大きくなっています。

### 6. 観光入込客数

99年度の被災地への観光入込客数は、震災前の入込客数と比べると6.4%上回っており、震災後減少した入込客数は順調に回復しています。

### 7. 神戸港の輸出入額

神戸港は全186バースのうち177バースが使用不能になるなど、壊滅的な被害を受けたものの、96年度中に全面復旧しました。

輸出入額は、震災直後の95年には、震災前の6割にまで落ち込みましたが、97年には102%にまで達し、震災前の水準を上回りました。しかし、98年は不況の影響が輸出入額に現れ、震災前の96%にとどまりました。

## アジアにおける最新災害情報

### インドの大地震

インド時間の1月26日午前8時46分(3:16GMT)ごろ、同国西部のグジャラート州を中心に、パキスタンやネパールなどを含む広範囲の地域で強い地震が発生しました。ADRCのカウンターパートであり災害対応担当の農業省からのEメールによると、2001年2月1日現在、被害の最も大きかったグジャラート州で14,278人の死者が確認さ

れています。

アジア防災センターでは、本災害についてインド政府から送られてくる情報をはじめ世界中の関係機関が発信している情報をホームページに掲載しておりますので、詳細はそちらをご参照ください。

これらの情報を基に、今回の地震の被害についていくつかの考察を試みました。

### ● 被害状況

農業省からの都市別の被害状況に都市人口、震源(23.40N 70.32E)からの距離を加え、表にまとめました。

City/Town	Killed	Injured	Distance	Population		Direction
				Range		
Ahmedabad	738	828	240	A	2,876,710	E
Amreli	0	12	220	D		S.E
Vadodara	6	42	320	C		S.E
Bharuch	9	33	340	C	1,031,346	S.E
Bhavnagar	3	29	260	C		S.E
Bhuj	12,781	54,239	50	C	150,000	S.W
Banaskantha	33	126				
Gandhinagar	3	7	240	C		E
Jamnagar	114	1,708	110	C		S
Junagadh	8	75	210	C		S
Mehsana	0	41	210	D		E
Navsari	18	18	380	C		S.E
Patan	37	407	190	D		N.E
Porbandar	9	72	210	C		S
Rajkot	337	2,033	130	B	559,407	S.E
Surat	50	154	350	A	1,498,817	S.E
Surendranagar	89	1,743	160	C		S.E
Palampur	37	49	250	D		
Others	4	38				
<b>Total</b>	<b>14,276</b>	<b>61,654</b>				

Range--A: >1,000,000 B: 500,000-1,000,000 C:100,000-500,000  
D: 20,000-100,000 E:5,000-20,000 F:<5,000

被害は、直近の Bhuj(人口 15 万人)、グジャラート州(4,423 万)の中心都市 Ahmedabad(287 万)のほか、震源からの距離が 300km 以上離れた Surat などでも死者が出ています。上記以外にも震源から 100km 以内には人口 10 万以上の GandhiDam ほかに 2 万人以上の小都市だけでも 5 都市、300km 圏内には 29 都市もあるため、さらに死者数が増えることが懸念されます。

### ● グジャラート州の歴史地震

USGS のインドの地震データをダウンロードして内訳を調べてみると、西暦 1063 年~1984 年(主に 1600 年以降)の 1,167 件の地震記録のうち、州内に震源を持つ(北緯 20-25 度、東経 68-75 度で近似)ものは 80 件、うち M5 以上のものはインド全体で 685 件、州内で 27 件となっており、州内の地震発生件数はそれほど多くありません。しかし、今回の震源近くでは 1819/6/16 の M 8 (死者 3,200 人)、1956/7/21 の M 7 (死者 156 人)などがあり、同州北西部(Bhuj 周辺)は 1976 年に作られたインド国内の地震危険度分布図では最も危険とされるゾーン 5 に指定されています。

ご意見・ご要望等があれば  
右記までご連絡ください。

編集・発行： Asian Disaster Reduction Center(アジア防災センター)

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-1 IHDビル3F

E-mail: editor@adrc.or.jp TEL: 078(230)0346 FAX: 078(230)0347

誌代・送料： 無料 / 毎月2回発行(予定)